

伶楽舎 雅楽

曲目

- ・平調音取、越天楽
- ・盤渉調音取、蘇莫者、越天楽
- ・芝祐靖復曲(正倉院復元楽器版)
天平琵琶譜 番假崇
- ・舞楽 甘州
- ・太食調音取、長慶子

2026年

11月6日金

開場 17:30 開演 18:00

※雨天決行（荒天時は中止にする場合がございます）

料金

一般 2,000円 / 学生 1,000円

【全席自由席・消費税込】

8月16日(日) チケット発売開始

サンシティホール

☎048-985-1112

※9:00より電話・オンライン・窓口販売開始

こしがや能楽堂

☎048-864-8700

会場

越谷市日本文化伝承の館
こしがや能楽堂

〒343-0015 埼玉県越谷市花田六丁目6番地1

※未就学児童の入場はお断り申し上げます。
※能楽堂友の会会員・サンシティメンバーズ 10% 割引
※団体でご購入の場合は割引がございますので、お問合せください。
※前売券は 150 枚販売。当日券は販売予定。
（当日券は天候により販売を中止する場合がございます。）
※チケットをお持ちの方は、公演当日、日本庭園「花田苑」（9:00～17:30 ※入園は 17:00 まで）に無料で入園できます。
※能楽堂の「能舞台」および「観覧席の一部」は屋外の施設となりますので、防寒及び暑さ対策にご留意ください。

主催・
お問い合わせ

公益財団法人越谷市施設管理公社
サンシティホール 048-985-1112



公演のみどころ

管絃は、よく知られた平調の「越天楽」と、今年は冬の調子とされる盤渉調の曲を選びました。「蘇莫者」は元は舞樂の曲で、聖徳太子の尺八の音につられて、山神が山から降りて舞った等の由来が伝わる特別な一曲で、リズムの面白さや独特な旋律も楽しめます。また、盤渉調の「越天楽」は平調の曲と調が違うだけですが、聞こえる響きは全く異なります。比較してお聞き頂くのも興味深いと思います。

「天平琵琶譜・番假崇」は、世界最古の琵琶譜と言われる楽譜から復元された曲です。正倉院文書の裏紙から奇跡的に発見されたもので、これを芝祐靖が復曲、構成しました。唸々とした琵琶の音に次第に楽器が加わり、排簫、方響、横笛、大箏などの古楽器の合奏が古代の響きを蘇らせます。

舞樂「甘州」とは中国の地名に由来する曲名です。そこには毒蛇毒虫がいて近づけない島があり、この曲を演奏したところ、金翅鳥きんしりょうの声に似ており、虫が恐れて逃げたと伝わっています。「準大曲」に分類される格の高い舞樂曲で、襲装束の両袖を脱ぐ特別な着付けで舞います。楽曲も美しい旋律を持つ名曲で、優雅な平舞、四人での優美な舞をお楽しみ下さい。

晩秋から初冬にかけての宵のひと時、凜とした空気に染み入る雅樂を、どうぞご堪能下さい。(伶楽舎)

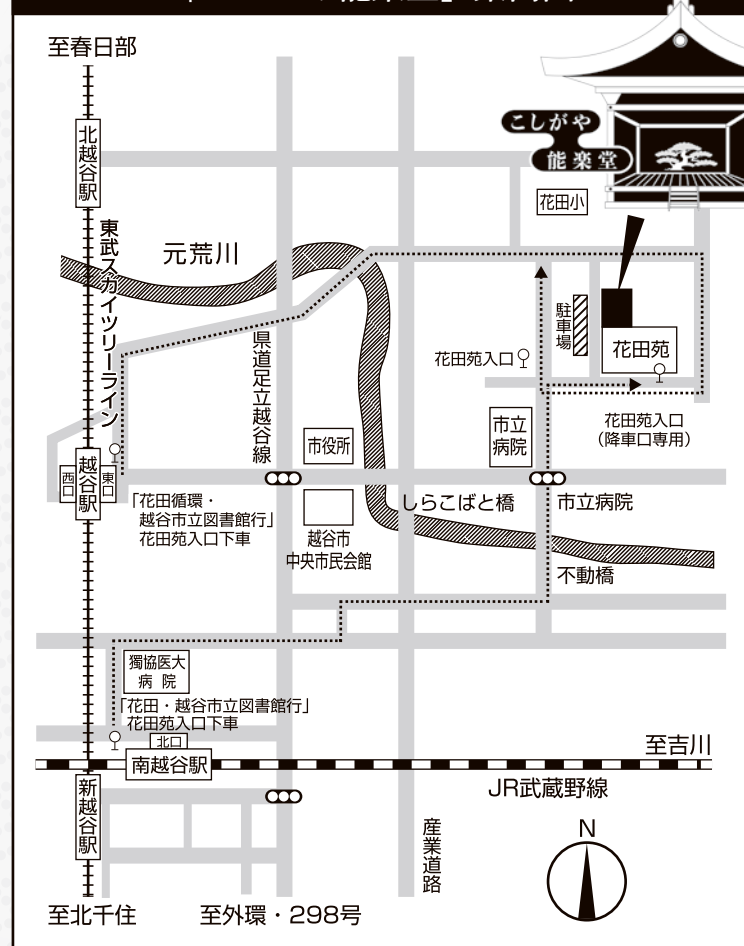
伶楽舎について

雅樂の合奏研究を目的として、1985年に芝祐靖（元芸術院会員、文化勲章受章者）が創立し、終生音楽監督を務めた。現音楽監督・宮田まゆみ。現行の雅樂古典曲以外に、廃絶曲の復曲や正倉院楽器の復元演奏、現代作品の演奏に積極的に取り組み、活動を展開。現代作曲家による作品の演奏や新作の委嘱、古典雅樂様式の新作、復元作品とともに自主公演で度々発表している。国内各地の他、海外の主要ホールなどに招聘されて演奏。解説入りのコンサートや学校等でのワークショップなど雅樂の普及公演も数多く行なっている。2016年佐治敬三賞、2020年ENEOS音楽賞邦楽部門、2025年第45回伝統文化ポーラ賞等を受賞。なお、「伶楽舎」とは、古代中国の楽人の祖とされる「伶倫」に因んで、現行の雅樂のみならず、廃絶曲や新作など、従来の枠にとらわれない幅広い活動を目指して、芝祐靖によって付けられた会名である。

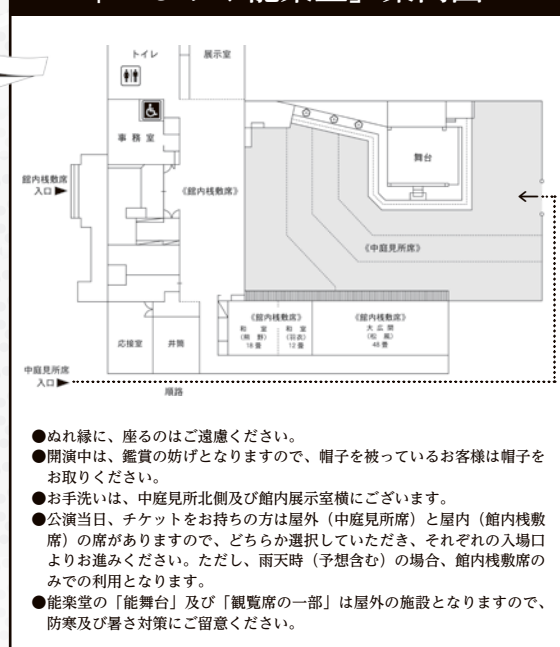


伶楽舎
ホームページ

「こしがや能楽堂」案内図



「こしがや能楽堂」案内図



会場・
アクセス

越谷市日本文化伝承の館

こしがや能楽堂

〒343-0015 埼玉県越谷市花田 6-6-1
TEL: 048-964-8700

- 駐車場には限りがありますので、ご来場の際は電車・バス等の公共交通機関をご利用ください。
- 東武スカイツリーライン越谷駅東口（北側ロータリー）より
花田循環又は市立図書館行きバス「花田苑入口」より下車徒歩3分
- 東武スカイツリーライン新越谷駅／JR武蔵野線南越谷駅北口ロータリーより
花田行き又は市立図書館行きバス「花田苑入口」より下車徒歩3分